

酒井重工、脱炭素推進組織

酒井重工工業は国内外の二酸化炭素（CO₂）排出量を2030年度までに13年度比で半減させる数値目標を掲げた。秋元俊彦常務執行役員ら15人で構成する「カーボンニュートラル委員会」を設置。CO₂を5割削減するための施策や、対外的なESG（環境・社会・企業統治）開示を推進する。国内では主力工場の電力を3月までに再生可能エネルギー由来のものに変更するほか、2022年度に営業車両の電気自動車（EV）化やハイブリッド車（HV）化を進める方針だ。

同社によると、国内

30年度までにCO₂半減

り替えてEV導入でほぼめどがついている。追加削減が必要になった場合は屋根などへの太陽光パネル設置も検討する。海外については米国とインドネシア、中国に工場があり、それぞれのCO₂排出量の算定や削減の具体策検討に入る。工場や物流のCO₂削減と並行して、主力商品のロードローラーの排出削減効果についても検証や数値の算定を急ぐ。EVローラー

内外でESG対応



などCO₂を出さない。これらの数字を内外に積次世代ローラーに積極発信することで企業イメージの向上につながる道路が舗装される。この

酒井重工工業の生産センター（埼玉県川越市）で再生可能エネルギー由来の電力を活用していく。とで走行車両の燃費が改善したり、耐用年数が延びたり、事故が減ったりすることによるCO₂排出削減効果を算定する。こ